

ハイデルベルク信仰問答より

問 44 「彼は陰府に下り」とつけ加えられているのは、どうしてですか。

答え それは最も厳しい苦難の中で、私の主なるキリストが十字架とそれ以前に（イザヤ 53:5、マタイ 27:46）、その魂に苦しまれた言い表し難い苦痛、痛みおよび恐怖によって、私を地獄の不安と苦悩から救ってくださった、ということを確認するためであります。

ここでは、使徒信条の「(主は) 陰府に下り」の部分が解き明かされています。おそらく、使徒信条の告白者にとって最も釈然としない部分でしょう。そもそも「陰府」とは何であるか、それが本当に存在するのかという、前提的な議論があるからです。聖書原文では、「シェオル」（ヘブル語）、「ハデス」（ギリシャ語）などの語で表され、基本的には「死者の行く場所」と理解されています。旧約では死後の人間の状態が不明瞭で、そのイメージは暗く冷たい墓であり、天とは対照的な位置関係で理解されていました。一方、新約ではもう少し具体的に、死者が世の終わりの審きを待つ「中間状態」として描かれています。この状態は、(肉体を持たない) 魂だけの状態で、最後の審判のために靈魂が待機しているものと考えられています。

さて、いちおう以上のような「陰府」の理解を念頭には置きつつも、本問答では主イエスが経験された「陰府」が少し違った視点で解釈されている点に注目したいと思います。「答え」をもう一度読んでみましょう。「それは最も厳しい苦難の中で、私の主なるキリストが十字架とそれ以前に、その魂に苦しまれた言い表し難い苦痛、痛みおよび恐怖」。ここでは、主イエスが地上の生涯で味わわれた凄まじい苦悩を「陰府」と呼んでいるのです。そこには、もちろん十字架の痛みと苦しみも含まれていますし、その前段階におけるゲッセマネの園での悶え苦しむ祈り、不眠不休の状態で6つの法廷を引っ張り回され、集団リンチと侮辱を一身に受けられたことも含まれています。しかし、主の苦しみの頂点は、父なる神様に棄てられるということであり、精神的基盤が取り去られた神の子の叫びにおいて最大限に現れているでしょう。「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ27:46／詩篇22:1）。

私たちは、この世界のすべての人に憎まれたとしても、母親だけでも、配偶者だけでも味方でいてくれたなら、それは大きな心の支えとなるはずで、すべての友に誤解されたとしても、たった一人理解してくれる友が残されているなら、希望を抱くことができるでしょう。主イエスの生涯において、主を真に理解できた人は一人もいませんでした。側近の弟子たちさえも、誰一人として一緒に法廷に立つことはありませんでした。主イエスはまさに、この世で自分をサポートしてくれる人が誰もいない状態で、悪魔の手に引き渡され、好き放題に扱われたのです。この時、主イエスの心の中で唯一の希望だったのは、父

と子の愛の関係だったはずですが。ところが、主イエスは最終的に、この「父の愛」さえも見失うことになります。事実、父なる神様は人類を罪より贖うために、御子との愛の絆を断ち切られたからです。

信仰生活の中には、闇の勢力に取り囲まれた自分の状態を敏感に感じ取る時があるでしょう。アブラハムが経験した「暗黒の恐怖」(創世15:12)は、自分の代だけでなく後世にまで続いて行く子孫の苦しみを察知した時に感じたものと思われます。八方塞がりの自分という存在に気づくときの恐ろしさは、言葉に表せぬものがあります。主イエスにおいては、「全き孤独」という恐怖が加えられました。最後の持みの綱であった父なる神様が見えなくなったのです。この状態は、迷子になった子どもの泣き叫ぶ姿から、ほんの少し想像できるかもしれません。

本問答は、主の「陰府下り」を私たちの慰めに結びつけて説明しています。「私を地獄の不安と苦悩から救ってくださった」。罪を犯した者は、永遠の孤独の中に投げ込まれるはずでした。神に会いたいと思っても会うことのできない苦しみがいつまでも続く状態です。その苦しみは主イエスが代わりに味わってくださったので、私たちはもう心配することがありません。神と永遠に共にいられる。今まさに私たちと共にいてくださる。聖霊の内在によって、私たちはいつもこのことを確信し続けることができるのです。

私たちの聞いたことを、だれが信じたか。【主】の御腕は、だれに現れたのか。彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。(イザヤ53:1-5)